



どれがいいかな

「遊々の森」  
での植樹体験  
〈香川森林管理事務所〉

二月一六日、高松市屋島国有林にある「遊々の森」にキドキわくわくコースにおいて、屋島東小学校四年生の児童二八名が森林教室とコナラ、ヒノキの植樹体験を行いました。

最初に四年生の教室で、里山についての森林教室を行い、人間の生活のすぐそばにある屋島の森林は、典型的な里山であることを学びました。

その後、「遊々の森」に移

動し、植樹を行いました。

児童たちは、まだ雪の残る斜面を鍬で一先懸命に掘り、木が大きく育つよう、丁寧に植えていました。植樹した後は、木杭に「自然大好き」や「大きく育て！」等と思い思いに書いたメッセージボードを木のそばに立てました。すべての苗木を植え、メッセージボードを立てた後、記念標柱を設置しました。

四年生の森林教室は今回で終了しますが、今後も植樹した木の生長や身近な自然に関心を持ち続けてもらいたいと思います。



雪をかき分けながらの植樹体験

「源平屋島の森で  
ボランティア活動  
〈香川森林管理事務所〉

二月二〇日、屋島国有林の「源平屋島の森」において、平成二二年度第三回目の森林ボランティア作業が行われ、約一四〇名が参加しました。

このボランティア作業は、郷土の自然に興味を持つてもらうことを目的に、地元自治会、高松市立屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年五月、十一月、二月の三回行っています。

今回は、毎回行っている下草刈りのほか、つる切りを重点的に行いました。「源平屋島の森」は、日当たりが良いため、夏場にクズが繁茂しやすく、樹木を被覆してしまいます。クズの繁茂を少しでも防ぐため、草丈が短く根が見つ

やすい今の時期に、できる

だけ根を引き抜く必要がありません。参加した人たちは、握り拳ほどもある根の塊や、引っ張っても引っ張っても先の見えない長さに驚きながらも一生懸命クズを刈っていました。作業は一時間半ほどで終了し、現地解散となりました。

来年度も「源平屋島の森」では三回の森林ボランティア作業を計画しています。今後も、地元の方々と「源平屋島の森」を育てていきたいと思っています。



つる切りの様子

農林業体験  
インターシップ「千本山」  
〈安芸森林管理署〉

一月二八日に高知県安芸郡馬路村魚梁瀬（やなせ）千本山国有林の「千本山林木遺伝資源保存林で高知県立四万十高等学校一二名の生徒さんがインターシップを実施しました。

「森の巨人一〇〇選」にも選ばれている、「千本山橋の大杉」の大きさの体験など五感を使って体験したことが、今後の学習の動機づけとなったのではないかと思います。

参加された生徒さんから体験感想文が寄せられたので紹介します。



〈高知県立四万十高等学校〉

酒井 千尋  
平野 勝己

千本山登山では、安芸森林管理署の皆さんにお世話になりました。魚梁瀬杉について詳しく説明していただき、魚梁瀬杉について学ぶことができました。

私は、屋久島研修で屋久島の杉を見たことがあったので、「魚梁瀬杉は大きい」と先生から聞いても、それほど期待はしていませんでした。しかし、実際に魚梁瀬杉を見ると、思っていたよりも大きく立派な杉だったのでびっくりしました。さらに、実際の木の幹と同じ大きさに作ったロープの輪でその大きさを体験させてもらいました。一二人が入ってもまだ余裕があり、見た目よりも大きいことに驚きました。



真優美杉での体験

登山をしながらたくさんのお話を学習しました。森林管理署の方々のお話は面白くて、きつい山道も楽しく登ることができました。

シカやウサギの食害などの話を聞き、動物の食害の違いを見分けるコツを教えてくださいました。食害の話聞いてみると、やはり四万十に限らずどの山でもさまざまな問題があるのだと思います。他にも間伐自体をやってはいけない区域があったり、よい森林を育てお金になる木材を育てるための森林管理は、とても大変だということがわかりました。




鉢巻落とし

ふれたり、「親子杉」や「鉢巻落とし」などの名前の由来などを聞き、たくさんのお話をさせてもらいました。

展望台に着くとそこから見える絶景は、言葉にはできないくらい雄大でとても気持ちよかったです。この活動では、一方から観察するのではなく前後左右と全体をみて、いろいろな方向から観察することが大切だということを教えてもらいました。四万十にはない大きな魚梁瀬杉や、千本山のきれいな森林を見ることができ森林の大切さをあらためて学習することができました。この研修で学んだことをこれからの勉強にも生かしていきたいです。

足摺駅伝大会  
に参加して  
〈四万十森林管理署〉



高知県西部の土佐清水市で、二月一三日、第四三回足摺駅伝大会が実施されました。コースは、六区間二九km、参加チームは高校生チームを含め総勢三八チームで、当署からは、二チームが参加しました。

「四万十森林管理署チーム」と「えいじ軍団チーム」です。署チームは、中津川森林官の森下さんと、森林技術センターの河野君の活躍で、一七位と好成绩でした。特に、技術センターの河野君は、区間九位と大変な活躍でした。

えいじ軍団チームは、若手の吉田君、渡邊君が八km、六kmに果敢に挑戦し、タスキを繋ぎ、最終ランナーの中尾君がラストスパートでアントニオ猪木のパフォームンスでゴールに駆け込み応援の方々から大きな拍手

と声援が上がりました。

チーム成績は、明暗が分かれたものの、署からの、応援団も駆けつけ、両チームとも練習不足の中、最後までタスキをつなげ無事ゴールすることが出来たことで、達成感、充実感でいっぱいでした。また、地域の方々にもたくさん声援を受け、森林管理署をPR出来ました。来年に向け、練習をかさね再挑戦することを誓い解散しました。



足摺駅伝を終えて



NO37 河野君 力走中





四万十森林管理署  
須崎森林事務所  
首席森林官 江入力男

ことが出来る観光スポットとしても注目されています。

須崎森林事務所は、高知県のほぼ中央に位置し、須崎市、中土佐町、津野町、四万十町に点在する国有林と官公造林を併せて約二〇〇〇鈔を管轄しています。

地域にあつては、この三月に須崎インターから中土佐インターの約七キロ区間が開通したことで、高知県西部への交通のアクセスが一段と良くなり、土佐の一本釣りで有名な中土佐町をはじめ、高知市からも日帰りで海や山の豊かな自然を気軽に親しむ

管内の国有林には、中土佐町上ノ加江の海岸に面して灘山国有林等が点在しており、シイノキやカシノキを主とした広葉樹林の魚付保安林(約一〇鈔)があります。そして、この灘山は、山頂にはその昔、海の監視と安全を守るため「雲囲城」と名付けた城があったそうです。また、平成一五年から地元の上ノ加江中学校と「ふるさと灘山」遊々の森(約五〇鈔)の協定もされ、学習の場としても活用されています。



上ノ加江港と灘山国有林(山頂が雲囲城跡)

管内には巨樹・巨木に認定された樹木はありませんが、地元の方にしか知られていない「じんば杉」という二本の杉の巨木が朴ノ川山国有林内の谷間にひっそりと立っています。地元の方の話では、約六〇年程前に伐採されようとしたそうですが、当時、搬出に困難を伴うためこの二本の杉は伐採されずに残されたと言うことです。一昨年六月に地元の方の案内で、須崎市立上分小学校の五年生

とこの杉を訪ねる事が出来ました。



「ばんば杉」と筆者：江入首席森林官

その他、林内には明治から昭和初期の時代のものと思われる炭焼き窯の跡が数多く残っており、高知県中西部の当時の生活の中で炭焼きが盛んであったことを伺い知ることが出来ます。

主な業務内容としては、保育間伐等の森林整備や小型バックホウによる林道維持修繕、境界管理等を行って言います。

また、請負事業で搬出間伐を行っています。

当森林事務所に着任して二年が経ちますが、搬出間伐については計画性を持って進めて行くことは当然のことながら、民有林に隣接した箇所が多いことや現地の地形など、間伐材の運び出しを計画するには困難な場面に出くわす事が多々あり、頭を悩ましながら計画を実行に移しています。今後、益々、国産材の利用が高まって来る中で計画的な間伐材の生産が出来る事を念頭に置きながら、円滑な業務運営を進めて行きたいと考えています。